

2008

連合徳島



防災サポートチーム

第8期生報告集

第8期連合徳島「ボランティア養成講座」修了に寄せて

日本労働組合総連合会徳島県連合会

会 長 川 越 敏 良

第8期「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」を修了に際して、貴重な休日を返上して熱心に受講をいただき、又運営等にもご協力をいただいたことに、敬意と感謝を申し上げます。

この「連合徳島ボランティア・サポートチーム養成講座」は、労働組合の果たす社会的役割として、地域の一員であることの自覚を促し、災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、労働組合としてのネットワークを行かした地域貢献、地域住民とのふれあいの中から共生と協働を確立するための事業として発足し、今年で8年目を迎え、ボランティア・サポートチームへの登録も100名を大きく超える成果を上げてきています。

昭和南海地震から60年あまりが過ぎ、記憶も薄れる一方で、今後30年以内には50%の確率で発生することが予想されるなど、災害予防への対策や災害発生時の対策などの必要性とともに、私たちを含む地域住民の日頃の心構えを学習したり、避難や防災訓練などを行なっていることが災害時に大きく人命を始めとする地域の安全を左右することが言われています。

今日只今の時間においても火山国であり、地殻変動の上にある日本では、どこかで、有感無感の地震が発生している現状を見れば、他人事ではありません。

養成講座では、様々な取り組みの報告や体験談を聞かせていただき、実際の救急措置の講習や体験、避難や防災に関わる図上訓練、実際の災害現場の視察などを通じて、防災意識の高揚と災害時の心構えの体得など様々な経験の中で、「参加して良かった」「是非何かの形で役立てたい」などの評価をいただいています。

私自身も、参加する中で、一大事の際の協働は、平時の協働意識の醸成が大切なこと、そして「自ら守る」ことの大切さを学ぶことができました。

連合徳島は、引き続き「ボランティア・サポートチーム」による人材育成と防災協力体制の確立について、市民参加と市民との協働の中で、一層の充実を図ってまいります。今後とものご指導とご協力をいただきますようお願い申し上げますとともに、ご協力いただきました関係諸団体の皆様に感謝を申し上げ、あいさつとします。ありがとうございました。

第9期講座の開催にあたって

連合徳島ボランティア・サポートチーム

養成講座運営委員会 運営委員長 藤本 恭士

第8回ボランティア・サポートチーム養成講座は、4月19日から10月25日の間、講義や実践体験など全7講座を開催し、多くの防災知識の習得と救急救命等の技術の向上を図ることができました。休日開催にもかかわらず、熱心にご参加くださいました受講生の皆様や運営にご尽力いただきました連合徳島及び関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

近年、日本のいたる所で洪水や地震などの大規模自然災害が発生し、多くの尊い命と財産が失われています。

私たちの住む徳島県も決して例外ではなく、南海地震は20年以内に発生する可能性もあるとされています。そして、この地震は、M8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れと、10分以内に津波が襲うことが予想されています。

自然災害をコントロールすることは今の科学では不可能だと思いますが、大規模災害が発生した場合に万全に備え、被害を少なくすることは可能です。

私たち連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後、発生が予想される地震等の大規模自然災害に対して、自分自身や家族を守ることはもとより、地域や職場等において公的な組織や被災者の方々と連携し、避難や救出・救命などの災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることを目指して取り組んでいきたいと思っています。そのためにも、さらなる知識と技術の向上をめざし一人でも多くの方に「第9回ボランティア・サポートチーム養成講座」にご参加いただきますようお願いいたします。

ー2008ボランティア・サポートチーム養成講座参加者ー

井川 樹里	岡川真紀子	齊藤 剛士	中川 智史	峰行 一夫	吉田 耕造
池谷 佳久	川越 敏良	坂尾 直也	中野 修次	三好 敏裕	加村 祐志
犬伏 純	木本 正	澁谷 良臣	能美 道則	村浪 彰英	
犬伏 雄人	木村 真憲	庄野 昌彦	福本 純	森田 朱音	
岩野恵実子	工藤 直幸	杉川 公章	藤本 恭士	八木由利子	
岩見 洋	国見 聖	高橋 修	古野 幸司	山下 昭彦	
大寺 禮子	小林 克典	田中 昭征	松下 俊郎	山下 健一	
大原由香里	小林 史典	谷脇日出正	溝俣 和哉	山藤 正義	

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

- ※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

- ※ 自治体への政策制度要求。

- ※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。

などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティア・サポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

TEL 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

2008ボランティア・サポートチーム養成講座

	開催予定日		講座内容	講師等	場所
1	4月19日	(土)	開講式・オリエンテーリング、 一般救命講習(心肺蘇生法、自動体外式除細動器・AED、止血法等)	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
2	5月17日	(土)	実践体験講習Ⅰ(災害について) 救急法・担架搬送・ロープワーク等	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
3	6月28日	(土)	「連合の森」下草刈り作業	県林務職員等	美馬市木屋平 中尾山「連合の森」
4	7月26日 ～27日	(土) (日)	野外活動 森林教室・木工教室・植林等 「連合の森」サポート	森林労連等	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
5	8月23日	(土)	災害現場、現地視察(旧木沢村)	県林務職員等	那賀町(旧木沢村)
6	9月27日	(土)	防災センター体験ツアー、救命講習	県防災センター	徳島県防災センター(北島町) 683-2000
7	10月25日	(土)	講演「迫り来る南海地震に備えて～阪神・淡路大震災を体験して～」 総括討論・修了式	連合徳島会長 川越 敏良 徳島新聞社メディア局 末沢 弘太	とくしま県民活動プラザ 664-8211

2008ボランティア・サポートチーム養成講座報告

4月19日（土）

開講式・第1講座は、徳島市東消防署で開催し、29人が参加。連合徳島・川越会長から養成講座の意義と激励を受けた後、一般救命講習（心肺蘇生法、AED等）を受けた。東消防署係員から救命についての説明後、訓練用の人形を使っての人工呼吸・蘇生訓練をした。また、AED（自動体外式除細動器）の使用についてもわかりやすく指導を受けた。講習終了後、参加者に徳島市東消防署から「普通救命講習修了証」が交付された。



5月17日（土）

第2講座—実践体験講習Ⅰ（災害について）

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと34人が参加。日常生活でも利用でき、役立つ三角巾を使っての止血法やロープワークを訓練。もやい結び、巻き結びなどロープに惑わされるも、多くの隊員の親切な指導と仲間同士で教え合いながら何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練や、川などで溺れている人へロープやペットボトルを投げての救助法などを学習した。





6月28日 (土)

第3講座「連合の森」下草刈り作業

「連合の森」親子サマーキャンプ（7／26～27）の植林前に、はじめて実施した下草刈り作業に28人が参加した。2006年から地元美馬市の協力のもと、「連合の森」を新たに中尾山に開設し、2年間でコナラ40本と栃の木50本を家族・グループ毎に植林してきた場所を自分たちで下草刈りやゴミの回収、鹿対策の防護ネットの修理作業を県林務職員や森林労連の指導のもと実施した。参加者は、汗ビッシヨリになりながらも自分たちが植林した木の成長を確認するとともに、カマを手の下草などを刈った。



7月26日 (土) ～27日 (日)

第4講座「連合の森」サポート

地球環境にやさしい労働運動をめざした「連合の森」親子サマーキャンプが、7月26日（土）～27日（日）美馬市木屋平の中尾山・平成荘で開催され、149人（大人89、子供60）が参加した。

12時30分から体育館で開会行事を行い、連合徳島・川越会長から主催者代表のあいさつの後、美馬市「平成荘」佐藤総支配人、連合議員ネット代表・庄野県議からあいさつを受けた。



昼のイベント1として「森林教室」が実施され、徳島森林管理署の職員から、「私たちを取り巻く森林について」①私たちの身近な森林について、針葉樹林（人工林）、広葉樹林（天然林）、竹林②森林のしくみ③森林の働き④地球温暖化と森林について、プロジェクターを使ってわかりやすく説明を受けた。



続いて、昼のイベント2として木工工作教室（カレンダー付時計作り）とボランティア養成講座の一環としてテント張り訓練（8人用×2・4人用×2）を2班に分かれて実施した。特に、木工工作教室は大人気で、杉の間伐材にどんぐりや木の実・枝などをボンドで付けたり、日付となる木にマジックで色を付けたり、時計を穴に固定するなど親子で熱中し、それぞれオリジナルなカレンダー付時計を完成させた。



夕方のバーベキューは、昼間に心地よい汗をかいたおかげで、子供たちの食欲も旺盛で肉・野菜・ウインナー・おにぎり・パン・すいかを食べて、大人達もビールを飲みながらそれぞれに交流を深めた。また、19時30分からは夜のイベントとして行ったビデオ上映（クレヨンしんちゃん、ドラえもん）も子供たちに大好評だった。



翌日は、朝食後に2006年美馬市の協力のもとできた「連合の森」へ車で移動し、県職林務職員の指導のもと、家族・グループ毎に50本の苗木（コナラ）を植林するとともに、今年も鹿対策の防護ネットも自分たちで取り付け、大きく成長することを願って名札も埋め込んだ。



初日に雨も少し降ったりしたが、2日間ほぼ天候にも恵まれ、森林管理署、林野労組や県職林務職員、地元美馬市の協力をいただき、標高1,050mのすばらしい環境のもと事故もなくサマーキャンプを終了することができた。

最後に、今回のキャンプにカンパ等を頂きました各構成組織・団体に心より感謝を申し上げます。



8月23日 (土)

第5講座は、2004年の台風10号による記録的な集中豪雨による土砂災害など多大な被害を受けた那賀町（旧木沢村）の災害現場を25人が現地視察した。8時30分に労館前を中型バスで出発し、10時30分に那賀町小浜の南部総合県民局「那賀林務庁舎」で県林務職員と合流。旧木沢村の大災害を受けた現場を視察し、復旧工事中の箇所を歩いて見るとともに、担当者から当時の写真と資料をもとに詳しく説明を受けた。



当時の被害の大きさを実感するとともに、国・県が進めている復旧工事の進捗状況が良くわかった。また、改めて自然災害の恐ろしさを再認識することができた。



9月27日 (土)

第6講座は、北島町にある県防災センターで開催し、28人が参加した。指導員の案内で防災ガイダンス、地震体験（阪神・淡路大震災の揺れ）、消火体験（消火器の使い方）、煙体験（低い姿勢で移動）、風体験（風速30メートル）を行った。続いて、4月に行った「一般救命講座」の復習を兼ねて、人形を使っての救命講習を受けた。





10月25日 (土)

第7講座・修了式は、とくしま県民活動プラザで開催し、27人が参加した。第7講座は、徳島新聞社メディア局情報部の末沢弘太さんから「迫り来る南海地震に～阪神・淡路大地震を体験して～」と題して講演を受けた。

末沢さんは、神戸市灘区出身で被災し、その時の体験をもとに地震の想像を絶する恐ろしさなどを写真や映像をプロジェクター使ってわかりやすく説明された。阪神大震災での揺れは、機械で体験する揺れとは全く別物で、「爆音の中、ふっとぼされ、振り回された」感じが強かったと。また、自分自身が災害当時の現場（長田区、東灘区、灘区、兵庫区など）を歩き、阪神高速倒壊や潰れた自宅、避難所の状況などが写真に収めており、その時の状況（電気・ガス・水道・交通機関など全てのライフラインが止まった）を詳しく話された。

そして、「防災というものは、突き詰めれば、死なないため」にどう対策をするかで、生き残る可能性を上げるためには、「まず災害を想像できるだけの知識を学び、災害に備えてください」と訴えられた。



修了式では、川越会長から修了証書（7講座中4講座以上出席）が手渡され、第8期の養成講座についての総括・反省点等、第9期に向けた意見交換を行った。



第8期ボランティア・サポートチーム養成講座に参加して (感想文)

ボランティアという言葉が世間的にも広まっている時代ですが、この連合徳島の「ボランティア・サポートチーム養成講座」は、まさに地震などの大規模自然災害などが発生したときに、家族はもとより地域の中で助け合える知識と技術の向上を図ることを目的としています。この養成講座は、AEDの使用による蘇生訓練をはじめとする災害救助方法や防災対策、更にはもしもの時の心構えを学ぶ場だと言えます。

人は誰しも“まさかの時”に適切な対応は取れないものです。ましてや、その知識や経験がなければなおさらです。是非、人として助け合える知識を学び取っていただきたいと思います。

開催も月1回のペースで土曜日の午前中であり、参加もしやすく、回を重ねるごとにチームとしての人間関係も出来て楽しい雰囲気の中で開催されています。誰のためでもありません。自分の家族、地域の方々、仲間を守ることの大切さを学ぶために、一人でも多くの方が参加されることを望んでいます。

(J P 労組 峰行 一夫)

今年度の第8期養成講座に、初めて参加させていただきました。事故、災害は予測できません。いつ何時、自分も含め、周囲の方々も危険にさらされるかも知れません。

今回のボランティア・サポート研修で感じたのは、事故、災害の場面などに遭遇した時、落ち着いて、自分が何をすべきか、また、周囲にもし人がいたら、何を指示できるのか。そんな心構えというものを教わった様に思います。

特に、東消防署で教わった一般救命講習（心肺蘇生法、AED、止血法等）は、見たことはあるけど、実際に自分でやる機会がほとんどなかったもので、有意義でした。（機会があれば、何回でも経験した方がいいと思いました）

又、野外活動として一泊二日で行った中尾山「連合の森」への植樹や、バーベキューは印象に残っています。子供たちも多く参加できたことが素晴らしかったと思います。環境や森林を守っていく大きな力は、子供たちだと思います。森林労連の先生方から、森林や環境を守っていくことの大切さについてスライドを使っただけの勉強会も良かったと思います。

最後になりますが、この間ずっとお世話をいただいた連合徳島の皆様、そしてサポートチームの皆様方に深謝いたします。又、機会があれば参加したいと思います。

（県議会議員 庄野 昌彦）

私たちは普段の生活で、まさか地震が起こるとは！と思いがちです。しかし、最近の優れた地震予知技術では、30年以内に南海地震が起きると予測しています。明日かもしれないし、50年後、100年後かもしれません。私の性格は発生してから慌てふためくタイプなので、とても今から備えることはできません。

そんな危機管理意識の薄い私が講習を受ける内に、忘れかけていた阪神・淡路大震災時のことが蘇ってきました。看護師の腕を生かすことができるのならと、入浴サービスのボランティアに参加しましたが、民家の崩壊・ビルの崩壊・そして地域全体の崩壊を目の当たりにして、一瞬言葉が出ませんでした。巨大な建造物が瓦礫の山となって崩れ落ちている様には、今まで思いもしなかった自然の脅威を見せつけられました。

阪神震災時、暴動や火事場泥棒がいなかったことを聞いたり、全国から大勢のボランティアが駆けつけて、被災者の救援に携わった事を知ると、いつ、どこでも、だれでもが＜お互い様＞という相互援助の精神が大切と感じました。

今回、養成講座を受講して、自然災害を人間の力で止めることは不可能でも、備えが万全であれば被害を最小限に留めることはできると再認識しました。

養成講座を終了し、多少の危機感が芽生えてきました。早速帰って緊急時のリュックに必要な物品を加え、逃げる体制を整えました。あれも、これもと欲張って詰め込んだので、身長？センチの私にはデカ過ぎる荷物となってしまいました。

今後、要請があれば、いつ、何処へでも駆けつけられるような気持ちを持ち続けたいと思います。そして“備えあれば憂いなし”のことわざを肝に銘じ、日々の生活に活かしたいと思います。

(病院局労働組合 八木 由利子)

本当に役立つボランティアとは、本当に困ったときに実践できる事なのではないかと思っています。

心肺蘇生やロープワーク、震災体験談は、真に困ったときに自分に何が出来なのか、またどのように行動すれば良いのかを様々な角度から知る事の出来る貴重な体験でした。

自然災害はいつ起こっても不思議ではありませんが、起こらない日常の中では備える事を思い立つ事は困難でした。

このボランティア・サポートチーム養成講座に参加させて頂いたことで、実践出来る技術を未熟ながら体験できた事が今後の生活に役立っていくと実感する事が出来ました。

また、キャンプや下草刈り等では、親子揃って参加されている方も多く見られ、自然を通じての家族交流の場面を見て、ほのぼのとするものがありました。

自然に接する事で自然の良い場面と怖い場面を理解でき、次世代への継承等も視野に入れているこの講座に学ぶものは多くありました。

最後になりますが、講座を企画された関係者の皆様に感謝の意を表し、結びとさせていただきます。

(全労済労組 齊藤 剛士)

第8期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館6F

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 088-655-4105

f a x 088-655-4113

e-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp

<http://tokushima.jtuc-rengo.jp/>